

水田周辺の畦畔で斑点米カメムシ類が多く確認されています 水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう！

1 作物名 水稻

2 発生現況

- (1) 6月下旬から7月上旬の巡回調査の結果、水田周辺の畦畔における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年よりやや多かった(図1)。
- (2) 発生のは主体はアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメであるが、大型のホソハリカメムシも複数地点の畦畔で確認されている(写真1～3)。

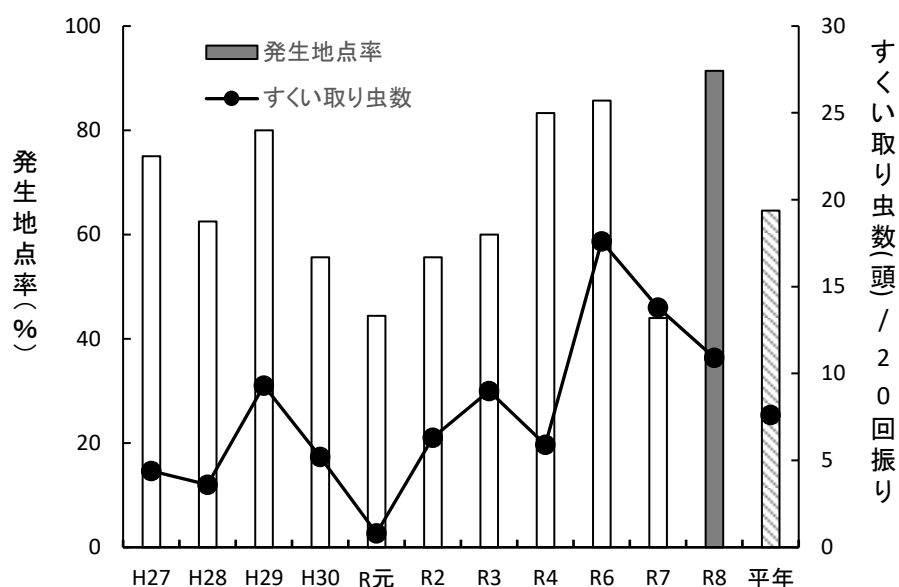


図1 水田周辺の畦畔における斑点米カメムシ類の発生地点率及びすくい取り虫数(6月下旬～7月上旬)
※平年は令和5年を除く、過去10か年の平均。



写真1 アカスジカスミカメ



写真2 アカヒゲホソミドリカスミカメ



写真3 ホソハリカメムシ

3 防除のポイント

(1) 水田周辺の草刈り(7月中旬、出穂 10 日前まで)

- ・ 水田周辺のイネ科雑草の刈取りは、斑点米カメムシ類(特にアカスジカスミカメ)の密度を低くするため、幼虫主体の時期である7月中旬までに行ってください。
- ・ 水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むことになるため水稻の生育状況を確認し、出穂 10 日前までに行ってください。

(2) 薬剤防除(出穂期以降)

- ・ 薬剤防除は、穂揃期とその7～10 日後の2回防除が基本です。
- ・ ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤 10 等)、エチプロール水和剤(キラップフロアブル)、スルホキサフロル水和剤(エクシードフロアブル)はアカスジカスミカメに対する防除効果が高く、特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができます。
- ・ イヌホタルイ、ノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることでアカスジカスミカメの密度を低下させ被害軽減できます。
- ・ 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム